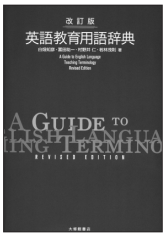
改訂版　英語教育用語辞典

白畑知彦／冨田祐一／村野井　仁／若林茂則　著

四六判　382pp.
本体2,500円＋税



田中春美

英語教師と英語研究者の必携書

10年前に出版され，好評を博していた辞典の改訂新版で，著者たちによれば，初版の立項項目を再検討して，800余りの項目の一部を削除し，新たに150項目を加えて，総計930項目に増やしたという。また，既存項目についても解説を書き直すなど，かなり大幅な改訂を行なっている。

338頁もある辞書本体――英語の用語をアルファベット順に並べてある――を残らず照合する余裕はないので，サンプルとして初版と改訂版のAの部分を比べてみることにしよう。まず量としては，初版は31頁に対して改訂版は28頁，つまり前者に比べて後者は3頁減っているのである。相互参照（→）の項目を除き，初版の51項目に対し，改訂版は47項目で，4項目減っている。それでは，どのようなものが削除されているかというと，absolute evaluation（絶対評価），acculturation policy（文化的同化政策），active listening（積極的リスニング），affective feedback（情意フィードバック），alphabets（アルファベット），anaphora（照応形），analysis of variance / ANOVA（分散分析），anthropological linguistics（人類（学的）言語学），antonym（反意語），apostrophe（アポストロフィー），appeal for assistance（援助要請），arbitrariness（恣意性）の12項目である。このうち，absolute evaluationのように，上位概念の別項目（criterion referenced evaluation）に相互参照されたものがいくつか，alphabetsやantonymのように，純言語学的なものが少なからずある。これらはほとんど，妥当な削除と言ってよかろう。

次に，初版ではなかったもので，改訂版に新たに加えられた項目として，次の8つがある。すなわち，active vocabulary（表現語彙／使用語彙），approach（教授理論／アプローチ），the Aspect Hypothesis（アスペクト仮説），assessment（測定／アセスメント），attention（注意），attrition（喪失），autonomous learner（自律した学習者／自律的学習者），autonomy（自律）である。このうち，attritionは，初版でlanguage attrition（言語の喪失）としてLの部分に含まれていたから，全く新しいというわけではないが，その説明の仕方は改善されている。それから，削除された項目のほうにもあったが，各項目の日本語訳が／（スラッシュ）を間に入れて，2通り・3通りになることがあり，著者たちが既存の訳語に十分な配慮を加えていることが分かり，好感が持てる。ついでながら，巻末の日本語索引（pp. 364-377）は大いに役立ち，その点も著者たちの配慮に感服している。

続いて，B以降の残りの本体を大ざっぱに見てみると，教授法・シラバス・評価などの語学教育関係の用語，それと関係の深い言語学・応用言語学の用語，著者たちの最も得意とすると思われる第二言語習得（second language acquisiton, SLA）研究の用語など，諸分野の配分にはあまり大きな偏りがなく，妥当なものと感じられた。強いて言えば，語学教育との関わりが薄いと思われる生成文法（generative grammar）の用語がやや多い，という印象を受けている。逆に初版にはなくて改訂版で加えられた項目のうち，例えばSLAのscaffolding（足場掛け）や，1980年代から急速に話題になってきているworld Englishes（世界の英語）などを選んだのは，著者たちの先見的英断と言っておきたい。

いずれにせよ，本辞典は手頃な厚さで，しかも内容が釣り合いよく，簡潔で的確な説明が加えられており，英語教師と英語研究者，およびそれらを目指している大学院生・学部生の諸氏にとって，必携の辞書と思われる。本体と日本語索引の間の引用・参考文献（pp. 341-363）も，適切に選ばれ，とても有益であると感じた。

（たなか　はるみ・南山大学名誉教授）